

子供や地域の人々の居場所としての子供食堂

NPO 法人SK 人権ネット（埼玉県）

NPO 法人SK 人権ネットが運営する「熊谷^{くまがや}なないろ食堂」（以下「なないろ食堂」という。）では、毎週月、水、金曜日の週3回、地域の子供等に食事の提供を行っています。中学生以下と70歳以上は無料、その他は200円で利用でき、誰でも気軽に参加できる子供食堂です。様々な世代の方が集まり、子供食堂であると同時に地域の交流の場にもなっています。



食事の様子

全国的に子供の貧困対策や地域の居場所づくりの必要性が話題になる中、熊谷市^{くまがやし}には子供食堂がほとんどありませんでした。そこで、「いろいろな人が関わり、いろいろな環境の子供に来てほしい」との願いから、平成30（2018）年4月から月に1回のペースでなないろ食堂を始めました。その後、本当に困っている家庭の子供たちが安心して食事ができる環境を整えたいとの思いから、同年10月からは月に2回に、令和元（2019）年8月からは平日の週3回に回数を増やしました。ふだんは、NPO 法人SK 人権ネットの職員3名が、地域の方や大学生のボランティアの協力を得て食事の提供を行っています。

なないろ食堂で使用する食材の多くは地域の農家や企業から寄附されたものです。くまがや農業協同組合の直売所では「なないろボックス」という専用ボックスを設置してもらい、週3回、食材を入れてもらうようにしています。毎月、寄附された食材をどのように使ったのか、なないろ食堂ではどのような活動を行っているかを報告するため、活動の内容や子供たちの様子をまとめた「熊谷^{くまがや}なないろ食堂通信」を作成し、寄附者に届けることで、なないろ食堂への理解を深めてもらい、継続的な食材支援につなげています。また、この活動により、利用されずに廃棄されてしまう食材を減らすことができます。

令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、通常どおり皆で集まって食べる形式では食事を提供できませんでしたが、その代わりとして週3回、希望者に対し弁当の配布を行いました。毎回120～140名の方に提供を行っており、地域に根付いた活動になっています。8月には、感染対策を実施した上でなないろ食堂の駐車場で夏祭りを開催しました。子供たちはゲーム、店舗の隣の畑での白菜やブロッコリーなどの植付け、きゅうりやナスなどの夏野菜の収穫と、楽しいひとときを過ごしました。また、10月からは、2か月に1度、支援が必要な世帯（ひとり親及び世帯主が失業している世帯）に対し、食材の配布を始めました。

今後も、地域の方々の協力も得ながら、食事の提供を通して、子供たちにとって心身の成長の場となるよう、取り組んでいきたいと考えています。

くまがや
熊谷なないろ食堂通信
令和2（2020）年8月号